


教材・支援機器活用実践事例

【ボタンのかけ外しに困難のある児童への指導】

	実施年度	平成28年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	「せんせいとやってみよう」～ボタン・着る～	
	授業における教師のねらい	○ボタンをかけたり外したりすることができるようにする。 ○服を着たり脱いだりすることができるようにする。	
	授業における子どもの目標	○ボタンをかけたり外したりすることができる。 ○チョッキを着たり脱いだりすることができる。	
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校 小学部 重複障がい学級 1学年	
	対象の障がい	知的障がい 自閉症スペクトラム障がい	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	簡単な音声言語でのやりとりができ、色や物のマッチングができる。うまくできなかつたり、思いどおりにならないことがあつたりすると不安定になり自傷行為がある。ボディイメージが弱いため、日常生活の基本的動作の獲得のために必要な模倣が苦手である。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<p>「色分けチョッキ」(袖なし上衣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボタン (左右をシールで色分け) (通し穴脇に緑のシール) ・前身ごろ (左右の身ごろを色分け) 	<p>【画像】</p> 
	活用のねらい	<p>○ボタンに色分けシールを貼ることで、ボタンの持つ場所が分かり、通し穴にボタンを通す動作を順序立てて覚えるようにする。</p> <p>○チョッキの左右の身ごろを違う色にすることで、チョッキをつかむ場所が分かり、腕を通す動作を順序立てて覚えるようにする。</p> <p>○ボタンを通し穴に通す動作や袖に腕を通す動作を順序立てて覚えることで、ボタンの掛け外しやチョッキの着脱ができるようにする。</p>	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<p>○初めは机の上に置いて正面からボタンの色分けシールを持ち、ボタンの掛け方、外し方を覚えるようにする。</p> <p>○シールやチョッキの色が手がかりになるように、指さしや言葉がけを行う。</p> <p>○通し穴に通す順番を身に付けるため、簡単にボタンを通すことができるようにボタンの通し穴を大きくする。</p> <p>○チョッキを着る順番を身に付けるため、簡単に腕を袖口に通すことができるように袖口を大きくする。</p> <p>○チョッキの腕を通す際、動きを擬音語で表しながら、手を添えて行い、徐々に支援を減らしていく。</p>	
子どもの変容や評価		<p>○初めは教師が手を添え、前身ごろの色の手がかりを言葉がけしながら行っていたが、徐々に一人で手がかりの色を言いながら行うことができるようになり、一人でチョッキを着てボタンをかけたり、ボタンを外して脱いだりすることができるようになった。</p> <p>○生活場面では、給食着を着る際に、同じ手立てで支援していくことで、給食着を一人で着てボタンをかけることができるようになった。</p>	